

メッセージアウトライン

ローマ 9 : 19～33「あわれみの器」

[19-21]「するとあなたはこう言うでしょう。『それなのになぜ、神は人を責められるのですか。だれが神のご計画に逆らうことができましょう。』しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、『あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか』と言えるでしょうか。陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権威を持っていないでしょうか」

だれも神のご計画に逆らうことができないのならば、人間には一切責任がなくなる。これは神と人間を同一次元に置くことによって出てくる疑問である。しかし、神と人間とを同じ次元で論じることにはできない。パウロはこれを陶器を作る者と土のかたまりの例をもって説明している。主権、権利は作る側が持っているのであって、作られた器にはない。しかし、これは救いと選びの問題に関してであって、自分の怠惰や努力不足の言い訳にはならないことも覚えておかなければならない。

[22-24]神は「滅ぼされるべき怒りの器」を豊かな寛容をもって忍耐してくださっている。

「神が栄光のためにあらかじめ用意しておられたあわれみの器」とは神のあわれみによりキリストを信じて救われたキリスト者のこと。彼らはユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも救いに召される。そして、滅ぼされるべき怒りの器である者も、神が豊かな寛容と忍耐をもって待っておられる間に悔い改めるならば救われ、あわれみの器とされる。→Ⅱペテロ3:9

[25-26]ここはホセア書2:23と1:10からの引用。これは直接的には神にそむき、神に見捨てられたイスラエル民族に対して言われていることばであるが、パウロはこれを異邦人に対して用いている。神にそむき、しりぞけられたイスラエル民族を神はなおも愛し続け、再び神の民へと回復された。この同じ愛をもって、神はこれまでしりぞけられていた異邦人を神の民とし、これを限りなく愛されるのである。

[27-29]これはイザヤ10:22~23と1:9からの引用。「残された者」とはもともとは捕囚としてバビロンへ連れて行かれずに祖国に残された者を指すことばであったが、イザヤはこれを、最後まで主に信頼して救われる者たちに対して使っている。そして、パウロもそれと同じ意味で使っている。

[30-33]異邦人が救われ、義とされたのは民族的、宗教的特権ではなく、信仰によってであった。逆にイスラエル民族は律法を追い求め、それを守り行うことによって神の義を得ようとしたが、実際はその律法の本質と標準には遠く及ばなかった。彼らはイエス・キリストという「つまずきの石につまずいた」のであった。33節はイザヤ28:16の引用。神は人間の知恵と力に頼る者たちにはつまずきになるような方法で、救い主をこの世に送られた。しかし、この救い主に信頼する者は決して失望することはない。このお方を信じ、あわれみの器とされた者は、神の恵みを無駄にすることなく、神の栄光、すばらしさを指し示す者となっていくことが大切である。